

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第四十五話

「昭和三十年の新冠大水害」

（要約文）

日高地方は、地震や台風による自然災害が多い場所として知られています。新冠町もこれまで幾度となく災害に見舞われましたが、その昔、今もなお語り継がれる新冠史上最悪の大水害がありました。

昭和三十年（一九五五）七月三日、夜半から強風を伴った大雨は、新冠で一時間に百ミリを越す集中豪雨となりました。翌四日早朝になると新冠川は急速に増水しはじめ、土砂や流木が川に巨大なダムを作り出し、それが破れて「鉄砲水」となって山間部や市街地を

あつという間に飲み込みました。警鐘が打ち鳴らされ、住民の避難もはじまっていたが、瞬く間に新冠市街の約七〇パーセントは濁流の景色へと変わっていききました。午前

十一時頃になると、水量は最高位に達し、加えて海では干潮を迎えたため、川の流速はさらに増していききました。家屋や家畜、家の屋根や木にしがみついていた人々は、一気に新冠川河口に向かって流されました。

逃れた住民は力を合わせ、河口の鉄橋からロープや醬油樽を投げ込んだり、米駐留軍のヘリコプターがロープを降ろして、濁流に投げ出された人達の救助に取り掛かりました。

なんとかつかまって助かった人もいましたが、力尽きて濁流の渦に巻き込まれた人もいました。その後、氾濫した水も徐々に引いてきたものの、この水害による犠牲者は二十七人にものぼり、家屋、家畜、土木被害も甚大で、道路も寸断されていたため、復旧は難航を極めたといえます。

郷土資料館学芸員は、当時被災された方々からその時の状況を聞き取り調査したことがあります。「あたり一面水浸し、水が引いても泥だらけで、家も家財も全て流されてしまった」、「地獄のような光景だった」、「流されていく人をただ無念の思いで見ているしかなかった」などと生々しい証言が聞かれ、今もなお、心の奥底に暗い影を落としていることを感じさせられました。

昭和三十年の水害から六十年以上経ち、この災害を目の当たりにした方々も年々少なくなっています。その後も多くの災害に直面しましたが、現代を受け継ぐ私達がこのような災害の歴史を知り、日頃から防災意識を高めていくことが大切ではないでしょうか。



新冠川が氾濫し
濁流に飲み込まれた市街地
(昭和 30 年 7 月 4 日)

「いざという時あなたの応急手当があなたの大切な人の命を救う」

消防署新冠支署では、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた救急講習会を実施しています。

○あなたの勇気で「救える命」があります。「繋がる命」があります。

大切な家族、友人、恋人のために受講してみませんか。

まずは、お気軽にご相談ください。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区 分	火災件数	救急件数
4 月	2 件 (1 件)	34 件 (25 件)
4 年 1 ～ 4 月	4 件 (1 件)	116 件 (102 件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区 分	発生件数	死 者	傷 者
4 月	1 件 (0 件)	0 人 (0 人)	2 人 (0 人)
4 年 1 ～ 4 月	2 件 (3 件)	0 人 (1 人)	4 人 (2 人)

人の うごき

(4 月末現在)

人 口	5,193 人	(前月比 + 15 人)
男	2,552 人	(前月比 + 13 人)
女	2,641 人	(前月比 + 2 人)
世 帯	2,750 世帯	(前月比 + 12 世帯)